

## 男性の人工妊娠中絶及び避妊に関する意識について

国立公衆衛生院

林 謙治、佐藤龍三郎、

高浜美保子

防衛医大産婦人科

永田一郎、古谷健一

三楽病院産婦人科

木村好秀

東海大学医学部産婦人科

牧野恒久、岩崎克彦、牧野英博

千葉大学医学部産婦人科

関谷宗英、関 克義、長田久夫

東京女子医大第二病院産婦人科

黒島淳子

人工妊娠中絶の予防については女性自身の避妊知識、態度、実行および教育、医療サービス機関の対応の体制が重要であることはいうまでもないが、カウンタパートである夫やパートナーの係わりは避けて通ることができない。5病院の研究協力者の協力をえて、産婦人科外来を訪れた女性に調査票を手渡し、夫もしくはパートナーの男性1000名に調査票の記入を依頼した。調査票の回収は郵便返送により、352名から回答を得た。調査内容は基本的に女性について調査した項目と同様であるが、男性自身としての避妊知識、態度、実行状況及び中絶の意思決定に対する係わり方、中絶の考え方を質問した（付表）。

回答者の年齢分布は25-39歳が中心であり、既婚者は81%であった。調査地域は東京近辺であることを反映して、小学校までに育った場所が市街地であったのが83%であり、教育水準については大学卒以上がもっとも多く69%であった。職業はいわゆるホワイトカラーが80%を越え、こどもを持っている人は約半数であった。妻・パートナーの出産経験がないのは45%、1-2回が45%であった。自分自身が係わる中絶経験および自然流産経験を持たないと答えているのがそれぞれ85%であった。妊娠を1回も経験しないが38%であった。

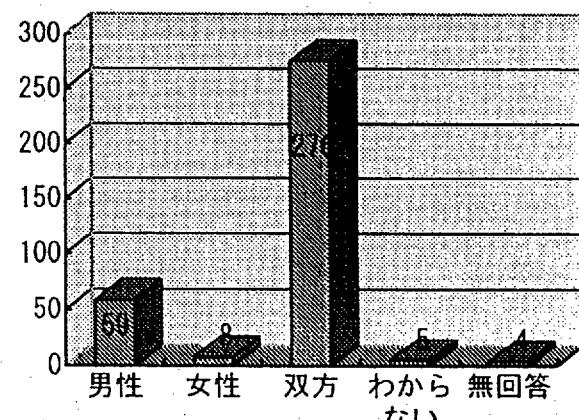
避妊を実行したことがある人のうち7割がコンドームであり、膣外射精が3割と意外に多い（図）。一方、妻の避妊方法を知っているのは44%に過ぎず、知っているとしているその避妊方法は56%がオギノ式と答えている（表）。最初の性体験にコンドームを使ったとしているのが53%であり、そのうち自

過去1ヶ月間の性交頻度については0回が3.6%と予想外に高率であった。3-5回がもっとも多く27%であり、平均2回程度である。避妊に関する知識は雑誌等が最も多く(55%)、次いで親・知人が(25%)が主な情報源である。このことは昨年女性を対象とした調査と同様なパターンを示しているが女性よりそれぞれ10%高い。逆に女性は医療施設・保健所・学校を合せて男性に比べ18%高い。男性の情報源がよりインフォーマルであることを示している(表)。

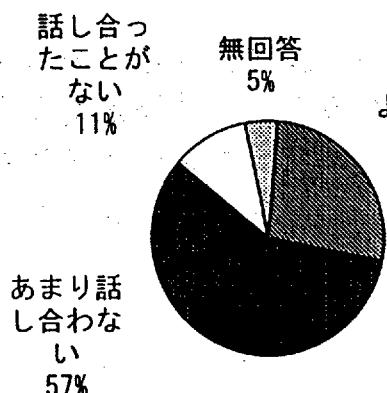
妻と避妊について積極的に話し合うのは27%程度であるのに(図)、避妊は男女双方の問題としているのは78%に達しており(図)、建前と実際に大きな乖離が見られた。ピルについては62%以上が「使ってほしくない」と答えており、その理由として副作用を挙げているのがほとんどであった(図)。

避妊に関する知識を どこで得たか	N	%
医療施設	10	2.04
公的施設(保健所等)	4	0.82
雑誌・本	270	55.10
学校	42	8.57
妻・パートナー	17	3.47
親・兄弟・友人等	122	24.90
得なかった	22	4.49
その他	3	0.61
計	490	100.0

避妊は男女どちらの問題か



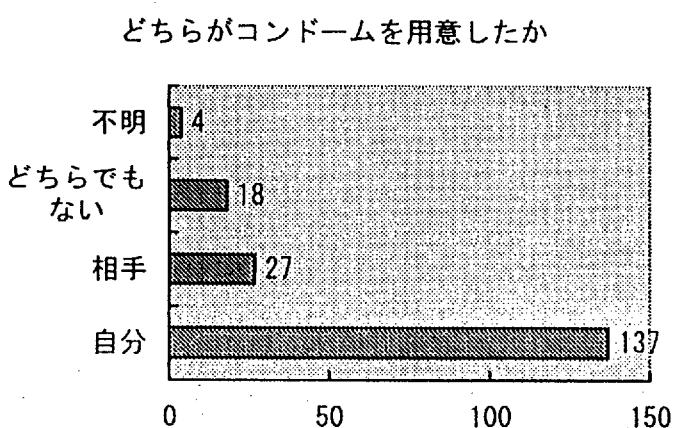
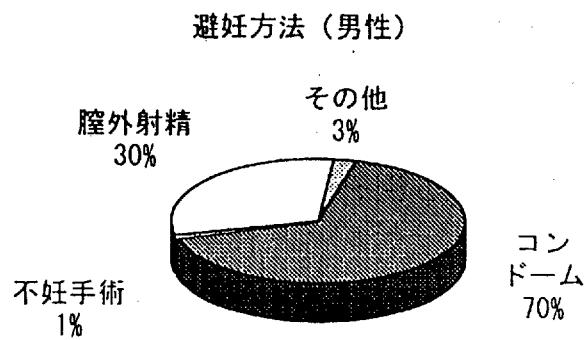
避妊に関するコミュニケーション



ピルを使って欲しくない

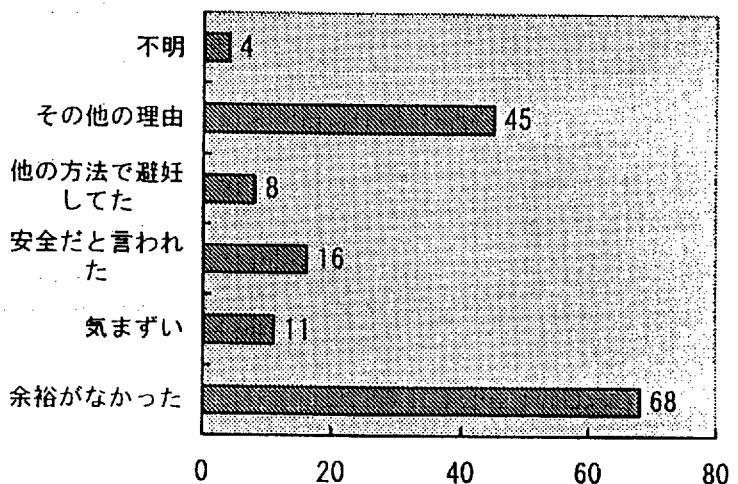
理由	N	%
パートナーが嫌がる	9	3.40
副作用が心配	195	73.58
既にある避妊法で充分	53	20.00
エイズ予防に役立たない	5	1.89
その他	3	1.13
計	265	100.0

分が用意したと答えていた人は74%であった(図)。コンドームを使わなかった理由として「余裕がなかった」、「気まずい」など行動心理的な理由が51%を占めた。また、女性側から「安全と言わされた」もしくは女性が「他の方で避妊していた」等がそれぞれ10%、5%であった(図)。



避妊方法(女性)	N	%
オギノ式・基礎体温法	88	56.41
ピル	17	10.90
殺精剤(フィルム等)	15	9.62
ペッサリー	8	5.13
IUD(リング)	12	7.69
女性不妊手術	4	2.56
その他	4	2.56
男性避妊法のみ	8	5.13
計	156	100.0

#### コンドームを使用しなかった理由



中絶に直接係わった体験者は59名であり、そのうち46名は夫婦だけで決めたとしている。手術時に付き添ったのが37名で、付き添わなかったが22名であった。付き添った男性が医師等からその後の健康問題や避妊について助言を受けたのは約3分の1の13名に過ぎない。しかし、受けた助言が十分なものであったと感じている人は4-6名程度であった。昨年の女性を対象とした同様な調査ではわづか20-30%が満足できる助言を受けていることを報告したが、男性の場合それよりさらに低く医療機関の果たしている役割はきわめて低いことが判明した。中絶に付き添わなかった22名の男性の挙げた理由のうち「心配ないと思った」「仕事が忙しかった」など無関心もしくは軽く考へているのが14名と多数派を示した(図)。

手術の為病院に付き添ったか		(人)		
はい	医療従事者から何らかのアドバイスを受けたか			
		はい	13	
		健康問題について	避妊について	
(37名)	充分受けた	6	充分受けた	4
	受けない	2	受けない	5
	充分でない	5	充分でない	4
		いいえ	23	
		不明	1	
付き添わなかった理由は				
いいえ (22名)	心配ないと思った		7	
	他に付き添いがいた		5	
	自分が気まずい		1	
	仕事が忙しかった		7	
	その他の理由		2	

中絶について同意できる意見については男性は女性と回答パターンに似ているが、ほとんどの項目は女性より低率であり、その差は「夫の承諾を得るべき」に廻っていることが目立つ。中絶に対し男性は基本的に女性より厳格に考えている傾向があるが、男性自身との係わりを強調している。（表）

中絶について同意できる意見	N	%
妊娠初期なら認める	48	5.80
避妊失敗は認める	74	8.95
経済的理由は認める	141	17.05
母体の健康に危険がある時認める	286	34.58
夫の承諾を得るべき	188	22.73
女性の意志・決断による	69	8.34
どんな場合も認められない	21	2.54
計	827	100.0

## 健康調査

### 調査の願い

このアンケート調査は、厚生省の委託により、国立公衆衛生院、大学、病院などの医師、研究者からなる研究班が行うもので、家族計画を通して、家族の健康づくりに役立つための基礎資料を得るために実施するものです。

20歳から55歳未満までの男性の方に無記名でお答えいただきます。ご記入の内容は国立公衆衛生院において統計的に処理され、調査結果は数字の形だけであつかわれますので、一人一人のご回答が漏れることは決してありません。どうかこの調査の主旨を十分にご理解くださいまして、ご協力いただけますように、お願いいいたします。

◎ご記入の方法 あてはまる番号に○をつけるものと、数字等を書き込むものがあります。

◎ご返送の方法 アンケート用紙を同封の封筒にいれ、そのまま投函してくださるようお願いいたします。あなたの氏名、住所は書かないで結構です。なお、アンケートに答えたくない方でも白紙のまま投函していただければ幸いです。

◎この調査についてのお問い合わせ先 〒108 東京都港区白金台4-6-1  
国立公衆衛生院 保健統計人口学部  
電話 (03) 3441-7111 内線 234 (林 謙治)

1) 次のうち、あてはまるものに○をつけて下さい。

あなたの年齢 1. 20-24 歳 2. 25-29 歳 3. 30-34 歳  
4. 35-39 歳 5. 40-44 歳 6. 45-49 歳  
7. 50-54 歳

2) あなたは現在結婚していますか？（以下、結婚は一緒に住んでいる場合も含みます）

1. 未婚  
2. 現在結婚している ..... 妻の年齢 \_\_\_\_\_ 歳  
3. 離別している  
4. 死別した  
あなたの結婚年齢 \_\_\_\_\_ 歳

3) 小学校卒業までに育ったところは主に次のどちらですか。

1. 市街地 2. 農山村・漁村

4) 最後に卒業した（又は在学中の）学校はどれですか？

1. 中学校 2. 高校 3. 専修学校 4. 短大  
5. 大学・大学院 6. その他（ ）

5) あなたの職業をおたずねします。次の中からもっとも近いものを一つ選んで下さい。

1. 主に農林漁業  
2. 自営業  
3. 勤め人 a. 専門職・管理職  
b. 事務・販売・サービス  
c. 現場労働  
4. アルバイト・臨時雇い  
5. 無職  
6. 学生  
7. その他（ ）

6) あなたの妻（パートナー）のこれまでの妊娠についておたずねします。それぞれ、回数でお答え下さい。

出産 \_\_\_\_\_ 回  
人工妊娠中絶 \_\_\_\_\_ 回  
流産 \_\_\_\_\_ 回  
妊娠回数合計 \_\_\_\_\_ 回 現在の子供数 \_\_\_\_\_ 人

7) あなたの避妊についておたずねします。

1. 現在実行している → (問8にお答え下さい)  
2. 以前は実行していたが今はやめている → (問8と問9にお答え下さい)  
3. 一度も実行したことがない → (問9にお答え下さい)

8) 問7) で1. 又は2. を選んだ方におたずねします。

a) あなたの主な避妊法を次の中から2つ以内お選び下さい。

1. コンドーム	2. パイプカット
3. 腹外射精	4. その他 ( )

b) あなたの妻(パートナー)の避妊法をご存じですか?

1. はい 2. いいえ

→ それはどの方法ですか? 次の中から2つ以内お選び下さい。

1. オギノ式・基礎体温法	2. ピル	3. ゼリー・フィルム
4. ペッサリー	5. IUD(リング)	6. 女性不妊手術
7. その他 ( )		

9) 問7) で2. 又は3. を選んだ方におたずねします。実行しない、もしくはやめた理由を選んで下さい。2つ以上選んでもかまいません。

1. 面倒くさい 2. 性的快感を損なう 3. 子供が欲しい  
4. 避妊に关心がない 5. その他 ( )

10) 最初の性体験の時にコンドームを使いましたか?

1. はい (問a. へお進み下さい)  
 2. いいえ (問b. へお進み下さい)

→ ▼ a. その時誰が用意しましたか?

1. 自分が用意した  
2. 相手が用意した  
3. どちらでもない

▼ b. 使わなかった理由を次のうち一番近いものをお選び下さい。

1. 考える余裕がなかった  
2. コンドームを扱うこと自体相手に気まずい思いをさせるから  
3. 安全な時期だと言わされたので使う必要がなかった  
4. 女性が他の方法で避妊していたから  
5. 他の理由で使う必要がなかった

11) 過去一ヶ月の性生活についておたずねします。

回数 \_\_\_\_\_回

12) 避妊についての知識を主にどこから得ましたか? 2つまで選んでもかまいません。

1. 医療施設 2. その他の公的施設(保健所・保健センター等)  
3. 雑誌・本 4. 学校 5. 妻・パートナー  
6. 親・兄弟・友人など身近な人 7. 誰からも得なかった  
8. その他 ( )

裏面へどうぞ →

13) 妻（パートナー）とは避妊について話し合ったことがありますか。

1. よく話し合う 2. あまり話し合わない 3. 話し合ったことがない

14) 避妊について、男性と女性、どちらが考えるべき問題だと思いますか？

1. 男性の方 2. 女性の方  
3. 男女双方 4. わからない

15) ピル（経口避妊薬）について、妻（パートナー）に使って欲しいと思いますか？

1. 使って欲しい  
2. 使って欲しくない  
3. わからない

→ ▼ 2. を選んだ方におたずねします。使って欲しくないと思う理由を1つか2つ選んで下さい。

1. 妻（パートナー）が嫌がる  
2. 副作用が心配  
3. 既にある方法で十分  
4. エイズ予防に役立たない  
5. その他 ( )

16)これまでに、あなたの性交渉によって人工妊娠中絶に至ったケースはありますか。

1. ある 2. ない 3. わからない／知らない

▼ 2. 3. を選んだ方は問22)へお進み下さい

17) その時、妻（パートナー）から相談を持ちかけられましたか？

1. はい 2. いいえ

18) 妻（パートナー）の人工妊娠中絶前に、あなたは他の誰かに相談しましたか？

1. 自分の親 2. 相手の親 3. 兄弟  
4. 友人 5. 誰にも相談しなかった 6. その他

19) 人工妊娠中絶の手術の為、病院まで付き添った事がありますか？

1. ある 2. ない  
↓

20) 上の問で2. を選んだ方は、その理由について一番近いと思われる項目に○をつけて下さい。

1. 一人で行っても心配がないと思った  
2. 他の人が付き添ってくれた  
3. 自分がついていくのは気まずいと思った  
4. 仕事などで忙しかった  
5. 他の理由 ( )

21) 問19)で1.を選んだ方におたずねします。

a) 病院へ付き添ったその時に医師や看護婦から何かアドバイスしてもらいましたか。

1. はい

2. いいえ

(2.を選んだ方は問22へお進み下さい)

b) 今後の身体の健康問題について満足・納得できる説明を受けましたか?

(1. はい

2. いいえ

3. どちらともいえない)

c) 今後の避妊について満足・納得できる説明を受けましたか?

(1. はい

2. いいえ

3. どちらともいえない)

22) 人工妊娠中絶について次の意見のうち同意できると思われるものに○をつけて下さい。(複数回答可)

1. 妊娠初期なら理由を問わず中絶は認められてよい。

2. 避妊に失敗したとき中絶は認められてよい。

3. 経済的理由による中絶は認められてよい。

4. 母体の健康に危険がある時の中絶は認められてよい。

5. いずれにしても夫もしくはパートナーの承諾を得るべきである。

6. 女性の意志・決断による。

7. どんな場合も中絶は認められるべきではない。

23) さしつかえなければ世帯の一年間の税込み収入についてお答え下さい。独身で親と同居されている場合、家計を別にされていらっしゃれば、別の世帯とお考え下さい。

1. 200万円未満

2. 200万円以上500万円未満

3. 500万円以上800万円未満

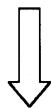
4. 800万円以上1100万円未満

5. 1100万円以上

24) 最後に、あなたの希望する子供の人数は? (将来も含めて)

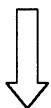
\_\_\_\_\_人

◇ご協力たいへんありがとうございました。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



回答者の年齢分布は 25-39 歳が中心であり、既婚者は 81% であった。調査地域は東京近辺であることを反映して、小学校までに育った場所が市街地であったのが 83% であり、教育水準については大学卒以上がもっとも多く 69% であった。職業はいわゆるホワイトカラーが 80% を越え、こどもを持っている人は約半数であった。妻・パートナーの出産経験がないのは 45%、1-2 回が 45% であった。自分自身が係わる中絶経験および自然流産経験を持たないと答えているのがそれぞれ 85% であった。妊娠を 1 回も経験しないが 38% であった。